

7月の植物

ノリウツギ (アジサイ科)

学名 : *Hydrangea paniculata* Siebold

アジサイの仲間なのに、なぜノリウツギ？ 確かに葉はウツギ類（アジサイ科ウツギ属）のように対生になります。また、この木の樹皮から和紙作りに欠かせないノリ（糊）が採れるからということなのです。

和紙作りと言えば～副会長の神代さんに聞いてみました。名尾和紙の先代の頃は補助的に使われていたこともあったようですが、現在はすべてトコロアオイ（アオイ科の植物）を使っているとのこと。トコロアオイが手に入りにくくなった年には、周辺でノリウツギを採って使ったこともあったそうです。名尾周辺には川べりに割と多く見られ、昔、糊用に植えられたものが野生化したのではないかという話もあるそうです。なるほど～やはり糊として使われていたのですね。

ノリウツギは北海道から九州の山地に自生する樹高2 mから3 mの落葉広葉低木で、真夏の脊振山や天山、作礼山などを歩けば普通に出会えます。

花は園芸種のカシワバアジサイのように円錐状に咲き、装飾花（ガク）は下の方にのみ、まばらに付きます。

アジサイのような派手さはないのですが清楚で素朴な夏の花ノリウツギを、山地や佐賀市大和町名尾周辺でぜひお楽しみください。

（文責：野中 千恵子）



2025.8.3 脊振山

2017.7.11 鬼ヶ鼻岩

参考文献：葉で見分ける樹木
林 将之 著 小学館 2009